

1 総合計画策定の主な経過と今後の取り組み

【平成 17 年】

- 7 月 まちづくり市民協議会委員を募集
光市総合計画策定本部を設置
光市総合計画策定方針を決定
- 8 月 市民アンケート（2 種類）を実施
光市出身者アンケートを実施
- 8 月 光市まちづくり市民協議会（45 名）を設置
- 12 月 光市総合計画策定プロポーザルチーム（若手職員 17 名）を設置

【平成 18 年】

- 3 月 第 1 回協働ワークショップを開催（市民協議会、プロポーザルチームで構成）
- 3 月 光市基本構想 骨子案 を公表
- 6 月 議会全員協議会において総合計画中間報告
- 7 月 まちづくり対話集会を開催（市内 11 会場、市民協議会・公民館との共催）
- 7 月 中間報告をもとにパブリックコメントを実施
- 8 月 まちづくり市民フォーラムを開催
- 12 月 基本構想議案を議会に上程（基本計画最終案を作成）

2 総合計画策定の体制及び市民参画の状況

(1)市民参加

光市まちづくり市民協議会（加藤正暢会長、小林一美副会長、45 名）

公募委員を含む 45 名の市民代表により構成。これまで 6 回の会議を開催し、議論を重ねてきました。今後は最終案の策定に向けて、3 回程度の会議を開催することにしていきます。

協働ワークショップ（市民協議会委員と若手職員で組織、3 部会で構成）

「共創と協働で育むまちづくり」に向けて、市民が主体的にまちづくりに参画するための協働事業等についてワークショップ形式により協議。これまで延べ 12 回の会議を重ねており、今後、具体的な協働施策等の取り纏めをおこないます。

市民アンケート（平成 17 年 8 月に実施）

光市のまちづくりに関する市民の意識や要望を把握し、総合計画策定のための基礎資料とするため、18 歳以上の市民を対象とした「市民アンケート」と外から見た光市のイメージ等を把握するための「光市出身者アンケート」を実施しました。

	配布数	有効配布数 A	回収数 B	回収率 B/A
市民アンケート	3,000	2,993	1,146	38.3%
市民アンケート	3,000	2,984	1,090	36.5%
出身者アンケート	258	255	117	45.9%

まちづくり対話集会（平成 18 年 7 月～8 月に実施）

まちづくりや総合計画に関する市民の意見を把握するとともに、地域の課題や取り組みについて、住民相互の意見交換を行うことにより、共創・協働のまちづくりを推進するため、市民協議会と公民館との共催により、市内 11 会場で開催します。

パブリックコメント（平成 18 年 7 月に実施）

市民の意見を幅広く計画に反映していくための新たな取り組みとして、パブリックコメント（意見提出手続）を実施します。今回は、提出された意見について、十分な検討ができるよう、中間報告という早い時期に実施します。

(2)総合計画策定アドバイザー

地方自治に関する様々な制度改革や社会経済情勢の変化に対応するため、まちづくりや都市経営に精通した専門家から、計画策定に関する専門的見地からのアドバイスを求めます。これまで、計画の前提や基本構想に関する助言や指摘を受けており、引き続き、アドバイスを求めていくことにしています。

川崎清先生（京都大学名誉教授）

都市計画や環境工学等を専門とされ、「京都市都市計画審議会」の会長や「奈良市都市景観審議会」の会長などを歴任されています。

小川全夫先生（九州大学大学院教授）

地域社会学や中山間地域政策を専門とされ、「国土審議会計画部会」の委員として「国土形成計画」の策定にも携わっておられます。

(3)庁内体制

総合計画策定本部（本部長：市長）

市の最高意思決定機関である庁議（市長以下部長級職員で構成）のメンバーで組織しています。本部に幹事会及び策定部会を設置し、全庁あげた取り組みを進めています。

総合計画策定プロポーザルチーム

若手職員 17 名で組織し、総合計画に関する協議やまちづくりへの提言を行うほか、市民協議会委員とともに、協働ワークショップに参加しています。